



2018年7月14日、登録記念式典の日の旧長浜検疫所一号停留所（撮影／平山次清）

旧長浜検疫所一号停留所の歴史的価値

公益社団法人横浜歴史資産調査会
会長 吉田鋼市

金沢区長浜にある横浜検疫所輸入食品・検疫検査センターがMM21地区へ間もなく移転することになっており、その一画にある検疫資料館の行方が注目されている。検疫資料館は、長浜検疫所一号停留所として建てられたもので、1924（大正13）年竣工の木造平屋。長浜検疫所の創建そのものは1895（明治28）年に遡り、そのとき38棟の木造建築群が建てられたのだが、その中でも建築的な質においても、規模的にも最も注目される施設が一号停留所であった。38棟のほぼすべてが関東大震災で壊れたのであるが、その復旧再建工事の際に、既存の建物の旧材を最も多く再利用したのがこの一号停留所であることが、神奈川県立公文書館所蔵の史料からわかる。他の建物がすべて洋風小屋組であるのに対して、一号停留所が唯一の和風小屋組であることもそれを証している。ただし基礎はコンクリートであり、意匠も基本的に震災後のものである。長浜検疫所は、1952（昭和27）年以降は横浜検疫所長浜措置場となっており、今日その名でよばれることのほうが多い。

検疫所とは伝染病の感染が疑われる船舶の船員・乗客等を一定期間隔離して滞在させるための施設であるが、一号停留所は一等船客を滞在させるための施設であり、他に二等船客のための二号停留所、それに対応する一号と二号の浴室、事務棟、細菌検査室、伝染病舎などの施設があり、最盛期

にはその数は50棟にも及んだ。それら50棟は1985（昭和60）年にほとんどが解体され、今日残るのは一号停留所と細菌検査室（後に試験動物舎となる）のみとなる。1998（平成10）年に一度壊された事務棟が長浜ホール（横浜市認定歴史的建造物）として復元され、旧細菌検査室（横浜市認定歴史的建造物）とともに長浜野口記念公園の施設としてある。

一号停留所はすでに書いたように木造平屋、和風小屋組、コンクリート基礎。外壁は南京下見板張り、一部豎羽目板張りおよび漆喰塗り、屋根は波形亜鉛鉄板葺き切妻（当初は天然スレート葺き）、一部瓦棒葺きで床面積は424.69㎡。プランは長い矩形の両端を突出させた整然とした左右対称のコの字型であり、その突出部に八角形平面のベイウィンドウを設けている。設計は神奈川県営繕で担当は内海清隆（1893-?、工手学校卒）、施工は地元の久良岐組と大林組。2018（平成30）年に国の登録有形文化財となっている。

長浜検疫所の日本の検疫史上に占める位置は大きく、細菌学・公衆衛生学史上における価値もあるだろう。港湾都市として発展してきた横浜の歴史にとっても重要である。一号停留所は日本の最初期の純洋風の外国人用ホテルとも見られ、様々な側面を含んでいる。長浜検疫所は長浜という景勝地にたつ最も進んだ洋風施設であったが故か、多くの文化人が訪れたことでも知られている。

旧長浜検疫所一号停留所(検疫資料館)の保存運動について

NPO法人野口英世よこはま顕彰会

事務局 金間誠一

■1. 保存運動開始のキッカケ

検疫所の依頼を受けて一号停留所(検疫資料館)の展示・保存資料の全容調査を実施中であった2016年12月8日、「横浜検疫所長浜措置場は『みなとみらい』に移転」、「跡地と建物群の扱いは未定」との新聞発表。「長浜措置場」は横浜市金沢区長浜の「横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター」のことで、一号停留所はその敷地内に存在。「扱いは未定」では調査中の一号停留所の存続が心配。その後、機会ごとに検疫所に尋ねたが、答えはいつも「未定」であった。

そんな中、2018年5月に「旧長浜検疫所一号停留所(検疫資料館)」が国の文化財に登録と発表。文化財保護法を勘案すると「検疫所は一号停留所を文化財として残すと決意した」と安堵した。

2ヵ月後の検疫記念日(7月14日)に文化財登録記念式典があった。夕方にNHKテレビでその様子が放映されたが、驚いたことに式典では話がなかった「国有地売却で解体の危機」「文化財登録施設が解体の危機」のテロップ付きの画面が出た。黙ってはその通りになってしまうとの強い危機感を持った。

■2. 一号停留所保存に向けた活動の検討

一号停留所保存にはどんな活動が効果的か。検疫所、顕彰会顧問の国・県・市議員の皆様、顕彰会が所属の横浜金沢文化協会、跡地利用に関心のある町内会、厚生労働省の検疫所統括担当部署、横浜市および金沢区の文化財および政策担当部署、文化庁などを訪ね、検討を重ねた。その結果、「市民・国民の多くが一号停留所の保存を望んでいる」という意思を示す署名集めであるとの結論に達し、文化協会の支援、金沢区議員団の賛同を得て署名運動を展開することにした。

■3. 署名集め

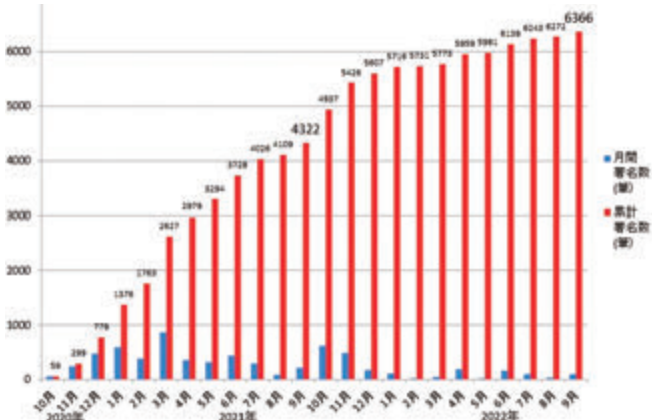
2020年8月をピークとしたコロナ第2波が静まり、同年10月17日に署名集めスタートの場と定めた顕彰会主催「講演会とシンポジウム」を迎えた。3密回避で参加者は定員の半数50名。参加者にレジメと共に署名簿と説明パンフを配布し、署名への協力をお願いした。



写真1 署名協力へのお願い

2020年11月になるとコロナ患者が増え始め、2021年1月にそれまででないコロナ第3波が到来。その中で、顕彰会会員にはダイレクトメールで、文化協会会員には運営委員会の席上で、区民には顕彰会・文化協会・関係団体の実施する行事の場で署名への協力をお願いした(写真1)。

図1 署名の月別集計状況



旧長浜検疫所一号停留所

■4. 署名の集まり状況

2020年10月のスタートから2022年9月までの月ごとの署名集計状況は図1の通りで、累計は6366筆。2021年9月末時点での地域別集計状況は表1(分析は暫定値)の様で、地元の金沢区内が一番多く、次が金沢区内を除いた横浜市内、3番目がそれらを除いた神奈川県内である。都道府県別では神奈川県に続いて東京都、埼玉県、千葉県と一号停留所に近い順である。野口英世との関係で福島県も多い。その他、北海道から沖縄まで全国に広がっている。さらに、海外在住者からもある。

■5. 国及び横浜市への要望書と署名簿の提出

2021年9月29日、道半ばで物足りなさはあったが、厚生労働省と横浜市での検討が急速に進むと署名の効果を選する、あるいは検討が進行中であれば保存の方向へ向かわせる効果を発揮できると思い、その時点で集まった4322筆の署名簿(写真2)と厚生労働大臣宛と横浜市長宛での一号停留所保存の要望書を携えて厚生労働省を訪ね、同省の代表者と同席の横浜市の代表者に手渡した。続いての懇談で、厚生労働省と横浜市の間で話し合いを始めたという意向が示された。

■6. 国及び横浜市の対応状況

その後、厚生労働省と横浜市の話合状況は不明であったが、2022年9月になって、「移転費用は国が持ち、金沢区内の公園に移築」の合意がなされたという情報が市中で聴かれるようになった。署名集めの効果はあったと自負している。

■7. 今後について

今後は一号停留所の具体的な保存と利活用の案についても検討を進める。



写真2 2021.9.28までに集まった4322筆の署名簿

表1 一号停留所保存署名者の地域分布 (2020.10.17~2021.9.28)

地域	筆数	地域	筆数	地域	筆数
金沢区内	1772	群馬・栃木県内	9	山口・広島・岡山・鳥取県内	22
横浜市内	736	茨城県内	6	福岡・宮崎・佐賀・熊本県内	16
神奈川県内	549	福島県内	163	沖縄県内	23
東京都区内	306	宮城県内	56	北海道内	25
埼玉県内	146	秋田・新潟県内	49	海外	3
千葉県内	133	青森・岩手県内	8		
静岡県内	23	富山・石川県内	2		
山梨県内	35	愛知県内	22		
長野県内	60	三重県内	2		
京都・大阪・兵庫県内	63	愛媛県内	30		

※横浜市内の値には金沢区内の値は含まない ※神奈川県内の値には横浜市内の値は含まない

追悼 宮村 忠会長ご逝去

宮村先生のご功績

公益社団法人横浜歴史資産調査会社員
(ものづくり大学名誉教授)

増渕文男

河相論をバイブルにして河川工学を論じた宮村忠先生は、1939(昭和14)年に東京森下の隅田川河岸で生まれました。戦後の動乱期を苦学し東京大学で1974年に博士号を取得、横浜にある関東学院大学工学部に1982年から勤める傍ら、国土交通省、横浜市等の都市行政、そして水防演習の地域活動に至るまで幅広くご尽力されました。当横浜歴史資産調査会の会長職も20年近くに渡り担ってきましたが、2022年9月3日に83歳で召天されました。

ご承知のように、先生は如何なる時でも数多の仕事を抱え、休養するよりも好奇心旺盛な心を満たすことが健康維持と考えている

ような性格でした。若かりし頃は、東京大学の高橋裕教授のところへ河川工学を学ばれました。これは河川工学の大家である河相論を著した安芸峻一先生に憧れ、その愛弟子になるべく高橋研究室に席を置いたようです。

関東学院大学工学部に在籍していた安芸先生の退職に伴い、宮村先生が河川工学研究室を引き継ぎました。2010年

には名誉教授となりご退職されましたが、在籍中には土木学会の全国大会を誘致、全国初の女子土木クラスの発足、またラグビー部を日本一にするため裏方として支えるなど大学にも多大な貢献をされました。

横浜においては、MM21の母体である新港埠頭調査では横浜市の都市デザイン室と協力し西脇敏夫氏、堀勇良氏、並びに北沢猛氏、窪田陽一(現埼玉大学名誉教授)氏、そして筆者らと共に横浜市民および市職員のために「宮村河川塾」を主宰しました。人間には人相があるように河川にも河相があり、その河川固有な特徴を見つけ出すことの重要性を説き、国内外の河川をご自分の足で見て廻り、河川の水防や利水にも新たな知見を見出す努力をされました。

宮村先生は河川工学に留まらず国土経営、地政学そして歴史・文化まで網羅して、自然を守りながら文化生活との協調する接点を見つけようと苦悩する研生活を送りました。このような活動が高く評価され、2019年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。一貫した志の人生は幸せだったと思います。それを支えたご家族に恩寵がありますようお願いいたします。



ベトナム・ハノイの街角にて宮村会長と

追悼メッセージ

●「想い出すこと」

吉田鋼市

河川工学史や土木史のバイオニアであった宮村さんについての記憶は、まず中公新書の「水害」(1985年)。そこには強引で人工的な治水によるものではない水防の歴史が驚くべき博識を踏まえて実地的確かな文章で綴られていた。その博識の源泉はご自宅の書庫の膨大な書籍が教えてくれるが、その探求の対象は相撲にまで及んでいて、しばしばユニークでリベラルな相撲観を教わった。そしてまた、女性の土木技術者の奨励にも努力されたところが、やはりリベラルな宮村さんらしいところである。

(公益社団法人横浜歴史資産調査会会長)

●「横浜の都市デザインに尽力」 西脇敏夫

宮村先生は、都市デザイン室が歴史を生かしたまちづくりを本格的に進めようと研究を始めた時から、土木部門の専門家として委員会に加わって頂き、その後制度が出来てからも歴史的景観



理事のみなさんと瑞穂橋梁にて

保全委員として、また歴史的資産調査会の委員として、後にはその会長としてお世話になりました。

「土木構造物は公共事業による公共物で、時代のニーズに応じて改変、改良されるため、歴史という分野がなかった」といいながら、横浜の土木構造物を保全し、まちづくりに生かすことにご尽力下さり、新たに土木史の分野を築かれたのではないかと思います。

河川工学がご専門で「アマゾン川を見てきたら利根川が小川に見えたよ」などスケールの大きな話は沢山記憶に残っています。今年になって論文の資料をお届けするので、何回かお宅にお邪魔をして長居し、よもやま話を楽しませて頂いています。これからヨコハマヘリテージで一緒できると思っていた矢先に残念です。ご冥福をお祈りします。(公益社団法人横浜歴史資産調査会監事)

●「海原のような人」

米山淳一

十字架に覆われた祭壇の背後にはほほ笑む宮村会長のお姿に思わず手を合わせた。横浜市歴史的資産調査会発足時から33年、いつも頼りになる方、いや男だった。一般社団法人へと移行すると都市デザイン室と両輪を掲げ、事業の推進を主張。さらに平成25年内閣府認定の公益社団法人へと転身すると「全国区だ。思い切りやれ」と肩を叩かれた。

その勢いに押され、シルクロードネットワークを設置。横浜ゆかりの絹の町と手を取りあった。また、鉄道発祥の地、横浜のシビックプライドを礎に日本鉄道保存協会と連携。さらに免税団体として歴史的資産の所得が可能となり、都橋商店街



東京駅が見えるレストランにて。(右から)西脇さん、宮村さん、吉田さん、米山さん

ビル、旧湘南電鉄瀬戸変電所、旧モーガン邸再建などにも関わられた。資産の所有を心配しながらも「これが使命」といつも頷いてくださった。

有楽町の新幹線が見えるイタ飯屋、新丸ビルの赤レンガ東京駅一望のレストラン。移り行く街が大好きな宮村会長。広く大きな海原のような会長のゆりかごの中で仕事ができ、光栄でした。ありがとうございました。

(公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事)

■会長に吉田鋼市氏就任

令和4年10月17日(月)午後3時30分～4時45分
さくらWORKS(関内)ミーティングルーム(会議室)
において、臨時理事会が開催され、宮村忠会長のご逝去にともなう後任の会長・代表理事、副会長の選任について協議をした結果、出席理事全員の賛成をもって次のとおり選任されました。
会長・代表理事/吉田鋼市氏
副会長/関和明氏

鉄道開業150周年記念事業報告

新橋—横浜間に日本で最初の鉄道が開業してから150年の今年。10月14日の鉄道記念日を中心に、各地で鉄道をテーマにしたさまざまなイベント事業が開催されました。

当公益社団法人では、代表幹事団体を務める日本鉄道保

存協会と連携し、「鉄道開業150周年記念事業委員会」を設置し、委員会を中心として以下の事業を行いました。関係各所の皆さまのご協力を頂き、無事に終了いたしましたことをご報告いたします。

■記念ロゴマークの作成。
篆刻家の古田悠々子先生の作品。



■全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会フォーラム

○展示「私たちのまちの鉄道遺産～横浜・神奈川を中心に～」
8月30日(火)～9月16日(金)

会場：横浜みなと博物館特別展示室

○シンポジウム

9月15日(木) 会場：横浜みなと博物館会議室
基調講演「神奈川・横浜の鉄道遺産の魅力」小野田滋氏(鉄道総合技術研究所担当部長)



横浜みなと博物館特別展示室



シンポジウムで挨拶する森まゆみ理事

■日本鉄道保存協会総会・見学会・シンポジウム

○見学会

9月16日(金) 横浜市内(横浜市電保存館、本牧市民公園D51、神奈川臨海鉄道横浜本牧駅、瑞穂橋梁、京急ミュージアム等)

○総会・シンポジウム

9月17日(土) 会場：横浜みなと博物館会議室
記念講演「鉄道遺産をまちづくりに生かす—汽車道の魅力—」増淵文男氏(ものづくり大学名誉教授)



京急ミュージアムにて

受付中!

■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。

TEL・FAX 045-651-1730

E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■鉄道遺産調査報告書作成

横浜市および神奈川県内の鉄道遺産調査を実施し、調査結果をまとめた報告書「鉄道の記憶 横浜・神奈川編」を作成、配布

■第44回歴史を生かしたまちづくりセミナー

「鉄道の記憶を生かした横浜のまちづくり」

9月18日(日) 会場：横浜みなと博物館会議室

○講演

- ・全国の鉄道遺産を生かしたまちづくり 米山淳一
- ・横浜の都市と鉄道 岡田直
- ・みなとみらい21・象の鼻パークの整備 北村圭一

▶横浜みなと博物館会議室での講演



旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団法人では、再建委員会(委員長水沼淑子)を設置し、再建計画、事業計画等をまとめ事業を推進中です。再建費用は、(公財)日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)

一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付頂いたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲示させていただきます。

*当公益社団法人への寄付は、税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。詳しくは事務局からご案内しますので、お問合せ下さい。

振込先：ゆうちょ銀行

口座番号：00270-4-124271

加入者名：公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※恐縮ですが、旧モーガン邸と明記してください

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。

米山淳一 30,000	一柳やよい 5,000
徳重淳子 10,000	東 昭一 5,000
中島 勲 10,000	北沢哲生 5,000
賀谷まゆみ 5,000	石黒 充 5,000
匿名希望 80,000	鈴木伸治 5,000

(敬称略。2022年7月1日～10月末日現在)



■歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団法人への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2022年秋号』 ■発行/2022年11月30日 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>